平成３０年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第６回大症例検討会「こんな時どうしますか？ ～より良い在宅医療を目指して～」

○日　時：平成３１年２月２１日（木）　午後７時３０分～９時００分

○場　所：那覇市医師会・４階ホール

○参加者：３７名（医師１５名、看護師１名、ＭＳＷ２名、リハビリ２名、栄養士２名、
ケアマネージャー・ケアプランナー７名、介護福祉士２名、歯科衛生士６名）

○司　会：嘉数 朗 氏（那覇市医師会　在宅医療・地域包括ケア担当理事）

●症例①：『 介護現場と在宅での歯科の役割 』

発表者：デイサービス南部整形外科　歯科医師・施設長　大城 健　氏

●症例②：『 歯科衛生士が関わった終末期患者の口腔ケア 』

発表者：沖縄協同病院　リハビリ室　歯科衛生士　仲程 尚子　氏

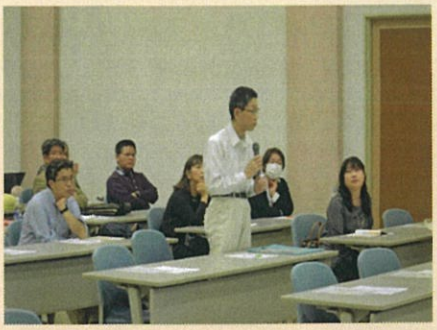
司会：嘉数 朗 氏

発表者：大城 健　氏

発表者：仲程 尚子　氏

※ 参加者アンケートの集計結果は別紙をご参照ください。

ディスカッションしている風景



平成30年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

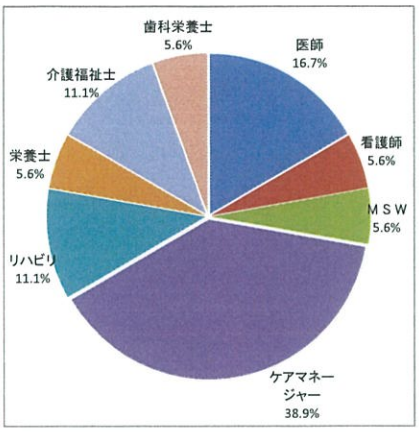
第6回大症例検討会アンケート集計結果

日時：平成31年2月21日（木）　午後7時30分～9時00分
場所：那覇市医師会・4階ホール

参加者：37名
回答者：18名
回収率：48．6%

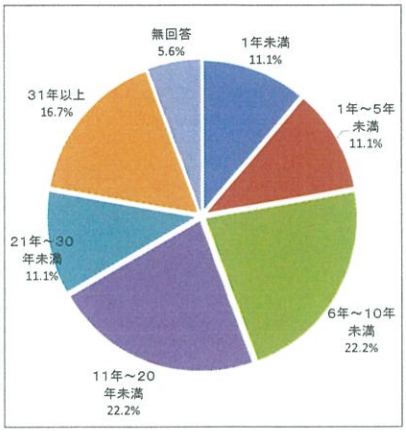
アンケート回答者の職種

職　種	人数	割合
医師	3	16.7%
看護師	1	5.6%
MSW	1	5.6%
ケアマネージャー	7	38.9%
リハビリ	2	11.1%
栄養士	1	5.6%
介護福祉士	2	11.1%
歯科栄養士	1	5.6%
合計	18	100.0%



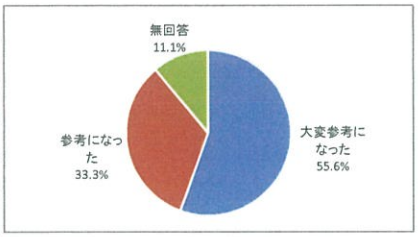
アンケート回答者の経験年数

経験年数	人数	割合
1年未満	2	11.1%
1年～5年未満	2	11.1%
6年～10年未満	4	22.2%
11年～20年未満	4	22.2%
21年～30年未満	2	11.1%
31年以上	3	16.7%
無回答	1	5.6%
合計	18	100.0%



①大症例検討会の内容について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

選択肢	人数	割合
大変参考になった	10	55.6%
参考になった	6	33.3%
無回答	2	11.1%
合計	18	100.0%



◇左記の回答について理由・感想をお聞かせください。

・様々な職種の方から色々な意見等が聞けて大変参考になった。
・嚥下・口腔ケアについて専門的な分野が学べた。
・日常の臨床で勉強できない症例を画像を含めて見ることができ、とても勉強になり、興味深い内容だった。
・歯科に関する症例があまりなかったので、とても参考になった。
・歯科・口腔ケアの大切さは知っていながらも、情報として見落としがちになっているため、とても勉強になった。
・食べるという一番生きていくうえで大切な口腔ケアについて、とても勉強になった。

②症例Ⅰ：『 介護現場と在宅での歯科の役割 』について　　発表者：大城 健　氏

・一つにムセと言っても色々な原因があることを学んだ。また、低栄養のことも大変勉強になった。
・リクライニング車椅子 ⇒ 通常の椅子へ変更し、頭が後ろへ向いていたためアゴを下へ向ける姿勢に訓練した方が良いのでは？今までリクライニングで召し上がっていた為、首が後方の状態で食べ物はたれ流しで嚥下機能がだんだん低下した結果、「最近ムセる」ようになってきたのかなと思った。食事の仕方の大切さを改めて感じた。
・口腔内の内視鏡の動画で食べ物が食道に入る様子も見れて分かりやすかった。また、耳鼻科医の意見も聞けて参考になった。
・介護現場の現状や歯科の関わり方について分かりやすく説明してくれたので勉強になった。また、画像も見やすくて参考になった。
・訪問診療で嚥下内視鏡検査して頂いているようで言語聴覚士として連携できればと思った。本症例のような方は在宅でもたくさんおり、考えさせられるケースだと思う。ギリギリの状態で経口摂取されている方もいる中で、どのような指導や介入をすれば良いか再考させられた１例となった。
・食事は高齢者にとって一番の楽しみである。食べられなくなる事が一番辛く、寂しい思いをすると思う。今は介護現場でも訪問歯科が介入することで嚥下の指導や口腔ケアをすることにより、誤嚥性肺炎を予防できるということが分かった。
・食事の基本はすべて飲み込みが終わってゴックンしてから次の食事をすすめるということが分かった。
・食べる楽しみをいつまでも続けるための工夫を多く知ることができた。病院から在宅へ戻る時に食べる時の情報を伝えきれていなかったことに気が付き、改善の必要性を感じた。
・食事前の口腔ケア、マッサージ（アイスマッサージ）等のケアも取り入れると嚥下がスムーズになるのではないでしょうか？
・人が不足して忙しい介護職員が、ムセさせないで食事介助を行なうような方法を見つけることにつながっていく症例だと思った。

平成30年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第6回大症例検討会アンケート集計結果

日時：平成31年2月21日（木）　午後7時30分～9時00分
場所：那覇市医師会・4階ホール

参加者：37名
回答者：18名
回収率：48．6%

③症例Ⅱ：『 歯科衛生士が関わった終末期患者の口腔ケア 』について　　発表者：仲程 尚子　氏

・口腔粘膜ケア用ブラシの有効性に関し知ることができて大変参考になった。是非使用してみたいと思った。
・言語聴覚士や歯科衛生士の役割の重要性を感じた。
・私自身体調が悪い時、舌下がよごれるので普通のブラシでは痛いので、まずは口腔粘膜ケア用ブラシを私自身で試してみて感触を得て良かったら高齢者様へ勧めてみたいと思った。マッサージは是非利用者様へ効果を試してみたいと思った。
・具体的な口腔ケアや環境づくり、他職種との関わりなど参考になった。
・口腔内乾燥している方が多いため、口腔粘膜ケア用ブラシを試してみたいと思った。難病の方にも使用できるのかなと感じた。
・口腔内の唾液の大切さで食べることがスムーズになる、口腔粘膜ケア用ブラシがあることを学んだ。
・口腔ケアで食思が戻ることもあると知って驚いた。そういった事例が今以上に知られるようになっていけば食べない＝すぐに経管栄養とならずに自分で食べられる喜びが続くのではないかと思った。
・私は回復期のリハビリの患者の摂食機能療法を行なっていますが、終末期の患者の口腔ケアの方法を勉強できて良い機会になった。
・カンジダ症などの口腔内の病気にならないためには、まずは口腔内を清潔に保つことが大切なんだと改めて再認識できた。

④今後、どのようなプログラム（テーマ）があったら参加したいと思いますか？

・経管から経口への移行について
・食形態について
・言語聴覚士や歯科栄養士さんとで実際に口腔ケアのデモンストレーションをしてほしい。
・同一疾患の成功事例と失敗事例を紹介しながら、何らかのヒントや気づきなど参考になれば嬉しい。

⑤その他、今回の大症例検討会全体を通して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

・これからの時代は施設や在宅で訪問歯科の役割が重要になってくると思う。
・ＰＤＦファイル等でレジュメを配布してほしい。